

春日部福音自由教会 2020年5月10日 11:00 同時配信礼拝（ライブ配信礼拝）  
聖書 新約聖書ヨハネの福音書 21章 15節～19節  
説教 「わたしの羊を飼え」 小野信一牧師

おはようございます。2020年5月10日、日曜日、主の日、主イエス様が復活をされた日曜日の礼拝の日を迎えました。今日は母の日でもあります。私たちそれぞれに、皆さん一人ひとりに産んでくれた母親がいました。そのことを思い感謝をする日でもあります。

今日はイエス・キリストの復活後の場面の御言葉をもう一度朗読して頂いています。「わたしの羊を飼え」と題して御言葉を取り次がさせていただきます。お祈りをささげましょう。

天の父なる神様、変わる事のない真実なるあなたの御名をあがめます。今日5月の日曜日、私たちはあなたの前にもともに出て礼拝を捧げます。普段なら教会の礼拝堂に集まって互いの顔を見、互いの声を聞きながら賛美と礼拝をささげていますが、今日まだ私たちはそれぞれの場所に留まって礼拝をささげています。しかしあなたはどこにいても私たち一人ひとりをご覧になり、離れている私たち一人ひとりに届いてくださるお方です。今あなたの前に礼拝をささげます。聖書が朗読されました。主イエス様の御言葉によって今日も私たちにお語りください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

## I あなたはわたしを愛するか

皆さんよく聞こえるでしょうか。聞こえてますでしょうか。先ほどは78の方が視聴しています、ということで教えていただきました。今日はイエス様の御言葉、特に二つの御言葉、二つとも3回繰り返してイエス様が言ってくださった御言葉に耳を傾け、心を向けたいと思います。

その最初は、「あなたはわたしを愛するか」という問いかけの言葉です。「わたしを愛するか」。主イエス様が私たちに問いかけておられます。一体誰が主イエス様を愛することができるのでしょうか。それは主の愛を受けとめた人です。イエス様に愛してもらった人です。主の愛を受けとめた人が主を愛するようになります。イエス様はこう言います。「あなたはわたしを愛するか」「あなたはこの人達以上にわたしを愛していますか」と。朝の食事が終わったときイエス様はシモン・ペテロに言います。「ヨハネの子シモン、あなたはこの人たちが愛する以上にわたしを愛していますか」。イエス様はシモン・ペテロをヨハネの子シモンと呼びます。イエス様はペテロのことをよくご存知です。そして「わたしを愛するか、この人たちが愛する以上にわたしを愛するか」と問われます。私たちがもしこう聞かれたらなんて答えたらいいのでしょうか。主イエスを愛するとは、主イエス様に愛されていることが分かって初めてできるようになることです。ですから主は「愛しているか」と尋ねておられるのですけれども、その前提として「わたしがあなたを愛していることが

分かるか」とも言っておられるように思うのです。主は三度ペテロに「わたしがあなたを愛していることがわかるか？大切だということがわかるか？あなたはわたしの愛を受けとめているか？」と問いかけているようです。その上で「あなたはわたしを大切に思うか？」と問いかけておられます。

ペテロに問われたこのことが、今日私たち一人ひとりに問いかけられています。「あなたはわたしの愛が分かったか？わたしがあなたを大切にしていることがわかるか？そしてあなたもわたしを大切に思ってくれるか？」と問いかけられます。イエス様は私たちに目を留め、一人ひとりに心を留め、そして一人ひとりを大切にお取り扱い下さいます。

ペテロが必要としていることがあったので、みんなで朝ごはんを食べた後、イエス様はシモン・ペテロに話しかけました。その時なんとなく朝ごはんが終わって、皆がぼらけていったような感じがします。まだほかの人たちが視野に入っているようです。その時に「この人たちが愛する以上にわたしを愛しているか？」とお尋ねになりました。イエス様はペテロに話しかけ、問いかけます。そしてこの後、二人は歩きながら話をしたようです。イエス様の方が一緒に散歩に連れ出してくださったのかもしれません。大事な話があったのです。ペテロの傷の部分、ペテロの心の傷の部分に切り込んで3度問いかけ、それによって癒し、3度務めを与えかづけてくださいます。イエス様は「わたしを愛するか？」と問われます。ペテロは答えます。私たちも答えます。皆さんならなんて答えるでしょう。もしできたらお祈りの中で、歩きながらの祈りでもよいです。答えてみてください。何て言ったらいいのでしょうか。「イエス様、あなたをご存知です。イエス様、あなたが私を大切にしてくださったので、私もあなたを大切に思います」。そうやって一人ひとりを、一緒に歩く時間、一緒に過ごす時間に連れ出してくださる。それもイエス様が私たちを大切にしてくださるといことです。「イエス様、小さな不十分な愛ですが、あなたを慕い大切に思います。あなたが私を大切にしてくださったので、私もあなたを大切に思い、あなたを愛しています」と答えることができるでしょうか。ペテロもどう言ったら良いか分からないと思いながら、そして二度目三度目と繰り返し尋ねられたので、心を痛めて、「主よ、あなたをご存知ではありませんか。私の心のことはあなたがすべてご存知です。私があなを愛していること、あなたは知っておられます」と答えます。「主よ、私の愛は小さくて不十分ですが、でもあなたを大切に思っております。あなたを愛し慕っております」と私たちが答えるとき、主は言われます。「わたしの羊を飼いなさい。わたしの大切な人たちを支えなさい。励まし力づけなさい。わたしの子羊を飼いなさい。わたしの羊を牧しなさい」。あるいは「世話をしなさい。わたしの羊を飼いなさい」。3度繰り返してイエス様は言われました。

## Ⅱ わたしの羊を飼いなさい

今日大切な言葉として私たちが聴きたい言葉の二つ目は、「わたしの羊を飼いなさい」というイエス様の言葉です。

まず第1に今日ここで覚えないことは、主が牧者であるということです。今日は交読文でエゼキエル書34章をお読みしました。そこには旧約聖書の牧者のことが書いてあります。34章全体を読むと、旧約聖書の牧者たちがだらしなかった、というか駄目だった。無力で力不足で、また自己中心であったという、主が言われたその言葉が書いてあります。「わたしはわたし自身で彼らの世話をする、わたしが彼らを探し出す」と言われるのです。主ご自身が牧者です。“主がわが羊飼い”旧約聖書詩篇23篇でうたっています。今日私たちはまずこのことを覚えましょう。「主ご自身がこの私の牧者なのだ、羊飼いなのだ」ということを。「私には羊飼いがいるのだ。私を見守り支え、導いてくださる方がいる」。そのことを、まず第一に覚えましょう。

「わたしが良い牧者だ」と言われた主イエス様が、ペテロにその務めを委ねられたのです。「あなたがしなさい」と任せようとしています。先ほどの「愛するか」というのは質問でしたね。ペテロが答えていますけれど、その後の「羊を飼いなさい、わたしの羊を飼え」という言葉は命令です。そこにはシモンの答えは書かれていません。しかしもし私たちがそう言われたら、「あなたがわたしの羊を飼いなさい。あなたがしなさい」と言われたら、私たちはどう答えるでしょうか。

一つは、「主よあなたこそ、まことの羊飼いです、あなたご自身がそれをしてくださいますように」とこちらからお願いするということがあるのではないのでしょうか。「イエス様、あなたご自身が、あなたの羊である大切な人達を探し出し見つけ、手を置いてください。油を塗り、薬を塗り、癒しかづけ慰めてください。安心させ、養い、休ませ、立たせてくださいますように」と逆にイエス様に願うことになるのではないか。私自身もそのように思います。まずイエス様がそれをしてくださいますように、と願うしかないのです。しかし、イエス様が「わたしの羊のケアをしてくれ」と言われます。「見守りなさい。世話をしなさい。助けなさい。かづけ、慰め、励まし、声をかけなさい。養いなさい」と言われます。ですから次に私たちが答えることは、「イエス様、あなたと共にそれをさせてください」という答えになるのではないのでしょうか。イエス様ご自身が良い牧者なのですが、その務めを人間にお任せになろうとされます。

イエス様は誰にご自分の大切なものを任せようとするのでしょうか。それは第一に失敗がない人ではなく、失敗した人、自分が失敗したと知っている人です。欠けがない人に任せるのではなく、自分には欠けがあるということを知った人に、イエス様は任せたいと言われるのです。

もう一つはイエス様を愛する人に任せる、ということです。出来るから、力があるからとかだけではありません。ただイエス様を信じる人だからというのでもなく、イエス様を愛する人に任せる

のです。「私にはイエス様が大事だ。イエス様が私を大事に思ってくれるから、イエス様が私にも大事だ」。そう思う人に、イエス様はご自分の大切なものをおまかせになります。「見守ってほしい、助けてあげてほしい」と言われるのです。イエス様の大切なものって何でしょうか。それはあなたです。それは一人ひとりの人間です。一人ひとりの、イエス様について行こうとする人です。ついて行こうとするのだけれども、その道の途中で恐れたり戸惑ったり迷ったり不安になったりする人たちのことです。そして途中で転んだり傷ついたりしてしまう、私たちのことです。「このわたしの大切な人たちをケアしなさい。あなたがわたしの羊を飼いなさい。癒しなさい。助け、世話をし、支えてくれ」と、イエス様が言われます。後でもう一つのみ言葉を読みたいと思いますけれども、そこでイエス様は、イエス様の大切な人たちのことを、“あなたの兄弟たち”とペテロに向かって言うのですね。「彼らはあなたの兄弟たちだ、わたしの羊とはわたしの大切な羊たちとは、あなたの兄弟たちのことだ。あなたが、わたしについてこようとする、わたしを愛そうとする、転んでも立ち上がってわたしの道を私と共に歩こうとするあなたが、わたしを自分の羊飼いと信託し、慕い、一緒に歩こうとするあなたが、わたしの大切な羊たちを、すなわちあなたの兄弟たちを、助けなさい」。これが、イエス様がペテロに話したことでした。

そしてイエス様が今日、私たちに言われることです。「今わたしの言葉を聞いているあなたが行きなさい。あなたがあなたの兄弟たちを力づけなさい。わたしの大切な羊たちを守りなさい」と主は言われます。「わたしがわたしの大切な羊たちの世話をする。だからあなたはわたしと一緒に来なさい。わたしが行く時、一緒に来て、わたしと一緒にしなさい。わたしと一緒に兄弟たちを助けるのだ。彼らはわたしの兄弟でああなたの兄弟だ。わたしの羊たちである。その人たちをわたしと一緒に支えなさい。わたしと一緒にこの仕事をしなさい」「わたしが探し出し、癒し、力づける。安心させ歩かせる」と主が言われます。ペテロが優れていたから、欠けがなかったから、その大事な務めを任せられたのではありませんでした。もしかしたらみんなつまずいたのですけれども、ペテロは他の弟子たち以上につまずいたかもしれません。他の人達、この人達以上により大きな失敗をした、その人だからこそリーダーとなったのかもしれませんが。「罪の増し加わるころには恵みも満ちあふれました。」ローマ5章20節に書かれています。

実はペテロに前もって語られたイエス様の言葉がありました。その御言葉を聞いて読みたいと思います。ルカ福音書22章31-32節です。これはイエス様が十字架にかかる前の最後の夜のことです。「サタンがあなたがたをふるいにかけることを願って、それがゆるされた。サタンがあなたがたをふるいにかけるだろう。わたしについてきたあなたがたは、ふるい落とされるようなことになるであろう」。イエス様はつづいてこう言われました。32節「しかしわたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですからあなたは立ち直ったら兄弟たちを力づけ

てやりなさい」。ペテロがつまずくってということ、転ぶということ、イエス様はご存知でした。そのペテロのために、イエス様が祈ってくださいました。

信仰がなくならないように、いま私たちも試され、試みられ、あるいはふるわれている。ふるいにかけているような状態かもしれません。礼拝堂に集まる人がだんだん少なくなって、今はもうほとんど来られなくなっている。そうして見えないところで、互いにイエス様に繋がろうとして、それぞれの場所からイエス様を礼拝しようとしています。私たちの信仰が弱くなる時、つまずいて転んでしまう時、イエス様が、私たちの信仰がなくならないように祈ってくださいます。ペテロがつまずくことはイエス様には分かっていました。つまづいたことを知っているのです、ここで三度尋ねたのです。私たちもそうです。

あなたはつまずいたことがあるでしょうか。過ちや失敗を犯したことがあるでしょうか。挫折し転んだことがある人でしょうか。もしそうならば、これはあなたへの言葉でもあります。「あなたは立ち直ったら兄弟たちを力づけなさい。わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。」イエス様が言われます。「兄弟たちを力づけなさい。わたしの羊を支えなさい。あなたもその働きと一緒にしなさい」。

牧師はもちろん、主の羊の群れの一人ひとりを見守りケアする、支え力づける務めがあります。その責任があります。今、ある意味では主の前に集まっていますけれども、でも物理的には散らされている人々の群れに対してそれをしなければならぬ責任があります。

また教会の執事にも、それに次いで群れの人たちを見守る責任がある。務めがあります。話を聞き、間に立ち、食べ物やお金や文化の違いで軋轢が生じないように、生じたら治めるように配慮する務めがあります。

そして教会の皆さんにもできることがあります。兄弟を力づける、一人が一人を力づける、一人が一人に声をかける、声を掛け合う、それは全員にできます。この務めを、イエス様から預かった使命だと受け止めた人たちが、イエス様がこの私にも、イエス様の大切な人たちを支える大事な務め働きを委ねてくださった。この使命を、喜びと感謝とおそれをもって受け止める人たちが、周りの人達を支え、仕えます。互いに助け合い、互いに支えあいます。それが教会です。

### Ⅲ 教会は、互いに励まし、支え合う

私たちの社会は今、お互いを見張り合うような監視社会になるのではないかと、いろんな科学技術が発達して、結果としてお互いを監視するような社会になってしまうのではないかと。科学技術は役に立つ面があるけれども、危惧もあります。例えば今、自粛警察なんていう言葉も聞こえてきたりします。日本だけではないかもしれません。でもこの日本もお互いがお互いを見張りあったりする、密告し合うような人間関係を持っていた時がありました。今もまた監視社会に向かって進むお

それがあつ中で、私達はお互いを見守り合ひましよう。見張り合うのではなくて、互いに誰かの過ちや間違いを見つけて指摘して密告し合うために見張り合うのではなくて、互いに支え励ますために見守り合ひましよう。それが教会です。

一人ひとりが、一人をケアましよう。声をかけ会ひましよう。大人も中高生も仲間同士、できたら声を聞いて話をし、あるいはもしビデオ通話でできるならば、顔を見られたら良いと思ひます。もし4人、一人ではなくて4人か数人、4人か8人くらいの人を見守ることができるとあるならば、是非それをして欲しいと思ひます。例えば小グループのリーダーやサブリーダー、そのほかの人でも良いでしよう。何人かの人、4人から8人くらいの人たちの様子を見てください、尋ねてみてください。「元気ですか、体調お変わりないですか、心配なことはないですか。離れているけど礼拝できましたか、祈ってほしいことはありますか。」お互いにそのように尋ねあひ、今ここに來られないでいる人たちみんなに、まずは2月、3月まで礼拝堂に來ていた人たち一人ひとりに。「集まらないでください、教会に來ないでください」という異常なことを言っている以上、代わりとなる礼拝の方法が届けられているか。四つの方法を用意しましたが、それで十分なのか。届いているのか。実際に礼拝をささげられているのか。お互いに声を掛け合ひたいと思ひます。私たちお互いが一人ひとりにできることをましよう。そして祈りましよう。主ご自身がまことの羊飼ひ、良い牧者として、一人ひとりを牧してくださいまように、と祈りましよう。

また牧師が群れの人達を牧することができるように、励まし支えることができるように祈ってください。執事の働きや教会事務の働きのためにも祈ってください。執事の働きは様々あります。連絡を整えること、配信をすること、信徒の状況の把握、教会学校のことなどです。また郵送や配達などの働きもあります。そして教会のメンバーがお互いに一人ひとりできることをしていけるように祈りましよう。一人が一人に声をかけることができるように。また4人から8人、数人の人達を見守りケアをしている人たちの働きのために、共に祈りましよう。イエス様が尋ね、また命じておられます。「あなたはわたしを愛するか。わたしの羊を飼いなさい」。お祈りをささげましよう。

天の父なる神様、あなたご自身がまことの牧者として私たち一人ひとりを守り牧してくださいまように。どうぞ目を留め心に留め、あなたの御手を置いてください。教会の働きを助け、牧師の務めを、また執事の務め働きを、教会のスタッフや事務の働きを、助けてください。また教会のメンバーが互いに声を掛け合ひ、一人ひとりが一人に声をかけ、またできる人は数人の人達を見守ることができますように。どうか私達がお互いを支え合うために、見守り合うことができるように助けてください。この世界の中、この日本の社会の中で見張り合ひ監視し合うのではなく、互いに守り合う共同体として歩むことができるように導いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りまします。アーメン。